

三河・知立と刈谷に残した足跡を中心に

入場無料

主催：刈谷市、刈谷市教育委員会
刈谷市美術館
後援：愛知県教育委員会

《夏雲》1950年

和田英作展

近代洋画の巨匠

2007年
7月21日[土]

▽
9月2日[日]

休館日：月曜日
開館時間：午前9時～午後5時
[入館は午後4時30分まで]

刈谷市美術館
1階 [第1展示室+特別展示室]

WADA-EISAKU



①



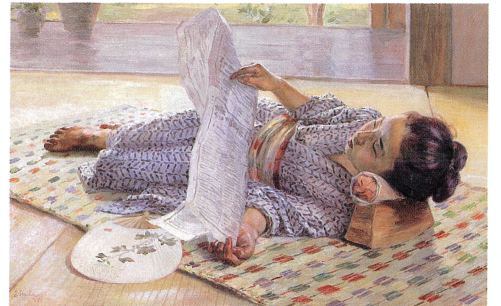
②



③



④



⑤

近代洋画の巨匠

和田英作展

三河・知立と刈谷に残した足跡を中心に

- ①《逢妻風景》1946年 刈谷市美術館蔵
- ②《知立神社の杜》1952年 知立市歴史民俗資料館蔵
- ③《バラとリンゴ》1946年
- ④《桃》1949年 財団法人長島美術館蔵
- ⑤《少女新聞を読む》1897年 東京藝術大学蔵

和 田英作(1874-1959)は、日本近代洋画の黎明期から活躍し、明治・大正・昭和の洋画壇に偉大な業績を残した画家です。

終戦直前の1945年3月、当時70歳だった和田英作は東京の自宅が強制疎開となると、この年の4月に愛知県碧海郡知立町(現:知立市)へ疎開することになりました。この地に暮らした1951年8月までの期間は、まさに終戦から戦後にかけての混乱期にあり、物資不足などによりその生活は不自由を強いられました。しかし、地元の人々からの援助を受けながら、ひたむきに作品制作に取り組みました。和田の知立時代は、長い画業を通せばわずか6年間程に過ぎませんが、好天に恵まれば意欲的に戸外写生に出かけ、近くを流れる川や東海道の松並木、刈谷の小堤西池などの風景画、また地元の人々から贈られる薔薇や果物の静物画など、数々の優品を制作しました。しかし、すでに半世紀が過ぎた現在は、「かつて巨匠が我が町にやってきた」という思い出さえ忘却されつつあります。

この展覧会では、和田英作が当地に残した足跡を、新発見作品を含む油彩画や素描約40点、関連資料によって振り返るとともに、特別出品として初期から晩年までの油彩画も併せて展示します。穩健で親しみやすい作風を築き上げた和田英作の魅力をどうぞお楽しみください。

会期中のイベント

◎ つくる⇔みるプログラム

＜静物画を描く＞

おだやかで美しい静物画を得意とした和田英作は、ものをつかりと見つめて描くことを“勉強する”と言いました。展覧会を鑑賞した後、水彩絵の具などを使ってじっくりと静物画を描きましょう。(未経験の方を対象にした内容です)

日 時＝7月22日[日] 午前10時～午後4時

対 象＝小学生5年生から大人

定 員＝20名

講 師＝山口ももこさん(美術家)

参加費＝800円(レクリエーション保険十材料費)

会 場＝美術館研修室

申込方法:《往復はがき》か《FAX》にて、プログラム名、参加者氏名(フリガナ)、住所、電話・FAX番号、保護者氏名、年齢(学校名・学年)を記入のうえ、刈谷市美術館までお申込みください。※《往復はがき》で申込む場合は返信用はがきにも住所と氏名を記入してください。定員を超えた場合は抽選とし、結果をお知らせします。締切は7月14日[土]必着まで。

あて先:

刈谷市美術館 〒448-0852 刈谷市住吉町4-5
FAX0566-26-0511

◎ ギャラリー・トーク

7月25日[水]、8月8日[水]、22日[水] 午後2時から約40分間

担当学芸員による展覧会解説ツアーです。
ご希望の方は、当日展示室前にお集まりください。



刈谷市美術館

〒448-0852
愛知県刈谷市住吉町4丁目5番地
TEL0566-23-1636
FAX0566-26-0511
<http://www.city.kariya.lg.jp/museum/>

交通のご案内

電車: JR、名鉄三河線「刈谷駅」下車、南口より徒歩10分
※「刈谷駅」はJR「名古屋駅」から快速で約15分
車: 名古屋方面より=国道23号線(知立バイパス)
一ツ木ICから約5km
※駐車場60台(無料)